

4月度の観察記録

カテゴリ : 2020年

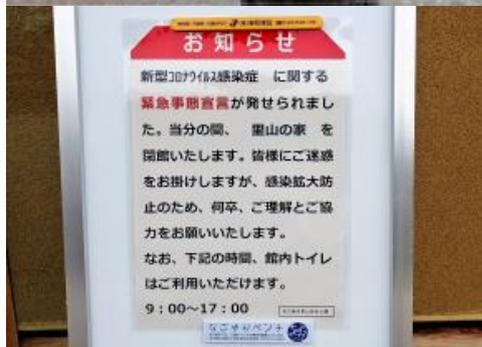
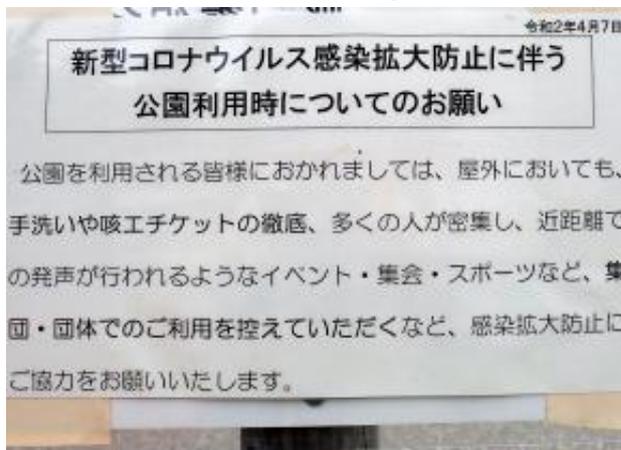
_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2020-4-12

2020年4月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2020年??4月?12日(日)9:30~12:30 作成:田畑恭子 監修:瀧川正子

天気:曇り 新型コロナウイルスの感染拡大の勢いが衰えず、今月の自然観察会も事前に中止が決まりました。3月は記録を残すことを目的として数名による記録会をおこないましたが、今月は愛知県独自の緊急事態宣言が発せられ、外出の自粛を求められる事態となりました。これは平和公園を個人的に歩いて取った記録です。平和公園の入り口には名古屋市から市民に向けて、**公園の利用に関する注意書き**が掲げられていました。集団や団体での利用を控えることを呼び掛ける内容でした。**里山の家は閉館**が案内され、利用できるのはトイレのみとなっていました。そして東向き出入り口は全て閉鎖されていました。





公園の入り口の看板 里山の家前の看板 里山の家は閉館 マサキの葉に食べあとがあり、ミノ
ウスバの幼虫がたくさん見つかりました。一枚の葉の裏に何匹も集まっていた。近くのクワを
よく見ると、地味な花が咲き始めていました。おたまじゃくし池のキショウブの葉にヤマトカギバ
がとまっていた。あとで調べるとコナラやアベマキを食草とし、蛹で越冬する蛾であることが
わかりました。





ミノウスバの幼虫 クワの花 ヤマトカギバ 足もとの草花を観察すると、**ヤエムグラ**や**ウシハコ**べの花が咲き、先月花を観察した**オオイヌノフグリ**には実がついていました。今まで実を注意して観察したことがなく、名前の由来になったのは実の形であることを知りました。



ヤエムグラ ウシハコベ オオイヌノフグリ 名前が「スズメ」で始まる植物はいろいろありますが、この日はスズメノテッポウ、スズメノヤリ、そしてスズメノカタビラを見ました。スズメは昔の人にとっても身近な存在だったのでしょ



スズメノテッポウ スズメノヤリ スズメノカタビラ カラスノエンドウにケバエの仲間が来ていました。今までの自然観察会で、幼虫が地面で大量発生しているのを見かけたことのある昆虫です。続いて姿を見せたのはルリタテハでした。去年の秋に羽化して成虫で越冬したチョウですが、翅の状態はきれいなようでした。また4月の観察会の常連であるピロードツリアブも写真に撮ることができました。



ケバエの仲間 ルリタテハ ビロードツリアブ 一重のヤマブキの花が咲いていました。「ヤマブキ色」と言うには少し黄色が明るいように見えました。北尾根へ向かう道の入り口ではヤマツツジとコバノミツバツツジが花盛りでした。





ヤマブキ ヤマツツジ コバノミツバツツジ 北尾根へ向けて歩き始めてすぐのところで見かけたハクサンボクのはつぼみはまだ固く、開花にはもうしばらくかかりそうでした。木々の新芽が至るところで目につき、ヤマウルシやウバメガシ、ネジキやカクレミノなど、落葉樹、常緑樹ともに芽吹き美しい時期を迎えていました。





ハクサンボク ヤマウルシ ウバメガシ **ガマズミ**の花はまぶしいほどの白色でした。鼻を近づけると甘い香りが感じられました。**サルトリイバラ**も花が咲き始め、新しい葉は赤味を帯びていました。もうしばらく北尾根を歩いて、**ザイフリボク**を見に行きました。花は上方に伸びた枝についていて、下からはあまりよくは見え、遠目に白い花を確認できる程度でした。



ガマズミ サルトリイバラ ザイフリボクの花 先月は冬芽を観察した**タカノツメ**ですが、この日は芽吹いた姿があちこちで見られ、北尾根周辺に数が多いのを改めて感じました。春の山菜として知られ、天ぷらにして食べると聞きます。**ミヤマガマズミ**の花は満開には少し早いようでした。コナラの実生が多く見られる場所で、そのうちの一本に大きな虫こぶが見つかり、調べると**ナラメリンゴフシ**と言って、中ではナラメリンゴタマバチというハチの仲間が育っているようです。



タカノツメ **ミヤマガマズミ** **ナラメリンゴフシ** 道端の**タンポポ**をよく見ると、**ヤブキリ**の幼虫が花を訪れていました。花びらや花粉を食べているかもしれないと思いしばらく見ていましたが、残念ながら確認できませんでした。ミチタネツケバナとタネツケバナはどちらも白い小さな花が咲きよく似ていますが、調べると**ミチタネツケバナ**はヨーロッパ原産の帰化植物、**タネツケバナ**は在来の植物でした。さらにミチタネツケバナは乾いた場所に生えるのに対してタネツケバナは水辺で見られるとのこと。確かに先月タネツケバナを観察した場所はオタマジャクシ池のそばでした。そ

して田んぼの周りでよく見られるのもこちらです。そして「タネツケバナ」の名は、水田の稲の苗を育てるために、種籾を水につける頃に花が咲くことからついた名前とのことです。そういえば東山の森づくりの会の田んぼでは近々種籾を水に浸す作業をするとの話を聞いたばかりです。



タンポポとヤブキリの幼虫 ミチタネツケバナ タネツケバナ **アベマキ**の枝からたくさんの**雄花**が垂れ下がっているのに気づきました。近寄ってよく調べると、小さな**雌花**も見つけることができました。赤い色が印象的でした。**フジ**の花のつぼみが早くもほころび始めていました。匂いを嗅いでみましたが、まだほとんど感じられませんでした。



アベマキの雄花 アベマキの雌花 フジの花 日当たりのいい開けた場所に紫色のスミレの花がたくさん咲いていました。田んぼの近くのケキツネノボタンには実がつき始めていました。カラスノエンドウにアブラムシがついていたので写真を撮ったところ、帰宅してから確認するとその写真の中にアブラムシを捕食するテントウムシの幼虫が写り込んでいました。





スミレの仲間 ケキツネノボタン アブラムシ 中道沿いのギシギシはレース状になるほどの食痕
が見られ、4月の自然観察会の常連であるコガタリハムシの幼虫が見つかりました。この日は成虫
の姿は見られませんでした。ハンノキではもう雄花は見られず、雌花を観察することができました
。すぐそばのヤナギでは、葉の裏に大量のヤナギハムシの卵が産みつけられており、孵化して間も
ない幼虫もたくさん見つかりました。



